

福井県陶芸館(1/2)

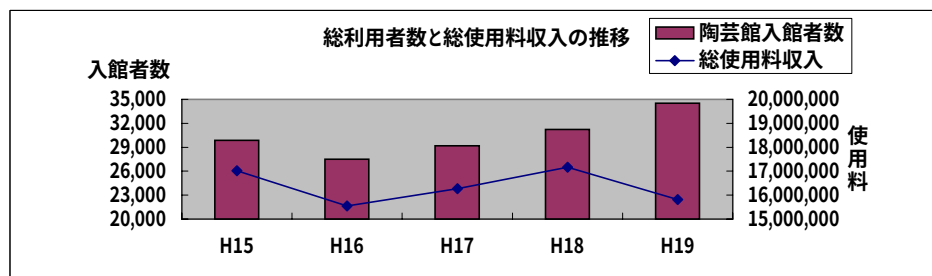
「いやしの広場」陶芸館へお越しください！

所在地	丹生郡越前町小曾原120-61		
設置年月日	昭和46年4月1日		
施設の種類	その他の博物館	施設管理主体	県
設置の目的	越前焼を「見る」(展示資料館)、「作る」(陶芸教室)、「使う」(茶苑)の3つの体験により、越前焼の振興を目的とする。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造2階建 延2,188.65㎡ 資料館・陶芸教室・茶苑・日本庭園(幽石庭)		
職員数	正職員6人、非常勤嘱託5人 アルバイト2人 計13人		

利用状況等

(単位 人)

	H15	H16	H17	H18	H19
陶芸館入館者数	29,850	27,512	29,200	31,234	34,501
(展示資料館)	8,796	6,933	7,818	8,410	8,783
(陶芸教室)	17,104	16,394	17,042	18,413	17,910
(茶苑)	3,950	4,185	4,340	4,411	7,808



利用状況の推移	近年、利用者は減少傾向にありましたが、利用サービスの向上に努め、平成18年度からの旅行者などのクーポン契約による誘客促進事業の結果、全体で約10%増加しました。一方で陶芸教室の利用者が約3%減少し使用料収入も減少に転じました。
---------	---

施設の特徴

日本六古窯の一つに数えられる越前焼の振興と古い越前焼の保存を目的として、昭和46年に開館しました。

陶芸館には「見る」資料館、「作る」陶芸教室、「使う」茶苑、「憩う」日本庭園(幽石庭)の4つの施設があります。

資料館

常設展 平安時代末期から現代までの越前焼、水野九右衛門コレクションの越前焼などを展示しています。

特別展 期間中県内外の優れた陶器をテーマを決めて展示します。

陶芸教室

越前の粘土を使って大人から子どもまで楽しく陶芸を体験できます。

てひねりコース、絵付けコースの体験教室があります。また、電動ろくろコースもあります。

また、各種陶芸講座(体験コース、技術習得コース)を開催しています。

茶苑

越前焼にふれ、実際に使って楽しみ、また日本古来の芸術文化である茶道を普及し、越前焼振興と合わせて、地域文化の向上を図るため設置されました。

48畳敷の大広間のある管理棟と正式な茶事ができる越知庵からなっています。

越前焼の茶碗を使った抹茶点出しを行っています。

幽石庭

庭の広さは1886㎡、滝の石組みや池の淵石、庭を彩る草木などすべて福井県産のものを使用しています。

平成19年度の特徴について

・特別展「信楽焼・越前焼交流800年展」に2,225人の入場がありました。

・陶芸に関するわかりやすい講座として「陶芸よもやま話」を平成16年度より開催しています。

・陶芸教室において、6月「親子電動ろくろ体験講座」、9月「越前焼で〈灯り取り〉作り」、11月「越前焼で〈干支〉作り」など、年間を通した楽しい企画を実施しました。

・「手ひねり講座(基礎講座Ⅰ・Ⅱ)〈参加者17人〉」、「電動ろくろ初級講座〈参加者30人〉」、「電動ろくろ中級講座〈参加者16人〉」を実施しました。

・展示資料館は約8千7百人、陶芸教室は約1万7千9百人、茶苑は約7千8百人、計3万4千4百人以上の利用がありました。

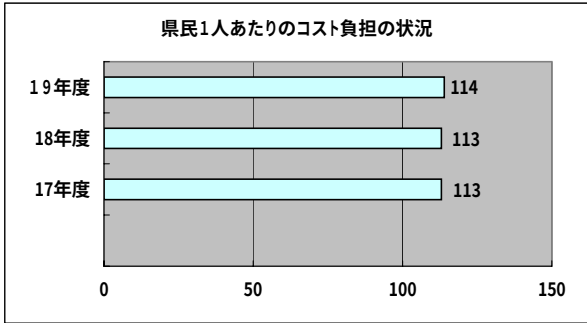
・県観光連盟と連携するなど、県外の旅行代理店等に対し、福井への誘客のためのPRを行いました。

・旅行業者とクーポン契約を結び、学校・観光施設等にクーポン券の利用促進のPRをしました。

福井県陶芸館(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度)		(単位 千円)		
		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	72,024	62.8%	99.5%
	退職給与引当金繰入	▲ 72	-0.1%	-
	計	71,952	62.7%	98.9%
物にかかるコスト	物件費	37,605	32.8%	100.4%
	維持補修費	1,833	1.6%	102.9%
	減価償却費	3,187	2.8%	100.0%
	計	42,625	37.2%	100.5%
その他	公債費(利子)	0	0.0%	-
	その他	185	0.2%	24.3%
	計	185	0.2%	24.3%
合 計		114,762	100.0%	99.0%
収入	利用料等収入	15,820	13.8%	92.1%
	その他収入	5,588	4.9%	94.7%
	一般財源	93,354	81.3%	100.5%

(単位 円)



バランスシート(平成19年3月31日現在)			(単位 千円)		
借方			貸方		
資 産		前年比	負 債		前年比
有形固定資産	493,573	99.7%	固定負債	47,658	99.8%
うち美術品	177,532	101.0%	うち退職手当引当金	47,658	99.8%
うち土地	296,991	100.0%			
投資等	0	-	流動負債	0	-
流動資産	0	-	正味資産	445,915	99.7%
計	493,573	99.7%	計	493,573	99.7%

主な指標 (単位: %, 円/人)			
	H19	H18	前年比
県民1人当たり有形固定資産額	605	605	100.0
県民1人当たり将来負担額	58	58	100.0
世代間負担率	90.3	90.4	-

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	施設の設置が、展示資料館が昭和46年、陶芸教室が昭和47年、茶苑が昭和48年と古く、設置当初の建物の償却が完了しているため、減価償却費の割合が低くなっています。 相対的に人件費が高い水準にありますが、これは減価償却が終わった古い施設に共通した特徴です。 また、将来負担となる固定負債は退職手当引当金のみですので、県民1人あたりの将来負担額は低い水準になっています。 資産のうち美術品の割合が36%をしめています。平安末期から現代にいたる705点の資料を収蔵しています。
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	資料館 展覧事業として越前焼を中心とした収蔵資料を展示する常設展とテーマに基づく企画展示をする特別展を開催しています。 陶芸教室 大人から子どもまで越前焼(陶芸)を体験できるてひねりコース、絵付けコースがあります。電動ろくろを使って製作する電動ろくろコースもあります。 茶苑 48畳敷大広間のある管理棟と茶室(越知庵)からなっています。各施設を利用することができ、越前焼の茶碗を使った抹茶点て出しを行っています。 資料館は平成20年8月25日、陶芸教室は平成20年9月1日からリニューアル工事のため休館しています。平成21年4月リニューアルオープン予定です。
今後の課題	平成19年度は平成18年度に引き続き利用者が増加傾向にありますが、展示機能の充実、県外からの誘客促進やリピーターの確保などが課題となっています。
今後の事業方針、取組み内容	平成20年度中にリニューアル工事を行うとともに、平成21年度から管理主体が指定管理者へ移行する予定となっており、展示内容の充実、窯元による陶芸体験コーナーの新設、陶芸をテーマとしたイベントの開催、県内外での越前焼のPRなど、様々な新しい企画を展開していく予定です。